

Rotary Club of

Kawaguchi

国際ロータリー第2570地区  
川越ロータリークラブ会報

vol. 20

会員数 102名	免除出席者 4名	正会員出席者 53名	出席者 57名	早退 0名	出席率 57.0%
----------	----------	------------	---------	-------	-----------

## プログラム

点鐘(12:30)/ロータリーソング「手に手つないで、R-O-T-A-R-Y」/ビジター・お客様紹介(なし)/卓話講師紹介/会長の時間/幹事報告/委員長報告/ニコニコボックス/出席報告/卓話/点鐘(13:37)〈司会:島村SAA〉

## 会長の時間

2022-23年度 会長 石井成人



さて本日の例会は、100周年記念例会として、小江戸川越ハーフマラソンのゲストランナーでもあります弓削田眞理子様にご講演頂きます。(先生は、本日12時まで授業を行ってからの、こちらに駆けつけていただきました)

ご案内のように、今年は、川越市政100周年という記念すべき年に当たります。12月1日、明後日がまさにその日になります。心からお祝い申し上げます。

大正11年(1922年)12月1日、「川越町」と「仙波村」が合併して川越市が誕生しました。埼玉県では最初の市制施行です。当時の人口は3万人でした。その後、東京のベッドタウンとして、経済成長とともに人口が増加し、昭和30年(1955年)吉野村、古谷村、南古谷村、高階村、福原村、大東村、霞が関村、名細村、山田村の9村と合併し、30年代の川越市民の歌に「みよ10万の意気上がる…」という歌詞もあったように10万人を越えました。昭和48年(1973年)には20万人を超え、平成2年(1990年)に30万人を突破し、現在35万3千人余りとなっております。

一方、蔵造りの街並みや時の鐘、喜多院、氷川神社、本丸御殿など歴史的建造物も多く、菓子屋横丁などの観光資源にも恵まれ、多くの観光客が訪れています。

市制施行100周年ということで、様々な行事も行われ、花火大会、百万灯夏祭り、川越祭りも29台の山車が引き回され無事終了しております。また、100周年記念のマンホール蓋の設置や初雁公演整備事業、グリーンツーリズム整備事業、各界を代表する著名人の講演会やシンポジウムなども実施されます。

12月1日には記念式典が実施されます。我がロータリークラブとしても、川越市のために更に協力をして、発展に尽くして参りたいと思っております。

その一環で、小江戸川越ハーフマラソン大会が、11月27日(日)2年ぶりに開催されました。当日は晴天に恵まれ、約1万人の参加者が川越の街を走り抜けました。当日、社会奉仕活動事業として、星野高校インターアク

トクラブの方々にも協力していただき、募金活動を実施し致しました。今までは、川越市内4クラブ共同事業として実施してきましたが、今年度はクラブ単独の事業として、職業社会奉仕委員会、インターアクト委員会が中心となって、(公共イメージ委員会で、わかりやすいチラシを作成していただき)「ロータリー希望の風奨学金」「エンドポリオ」「ウクライナ支援」の募金を川越水上公園で、実施しました。

インターアクトクラブの学生さんたちは、コロナ禍の影響で募金活動は初めての経験でした。はじめのうちは、どのように対応すればよいかわからずに、募金箱を持って小さな声で遠慮気味に立っていましたが、1時間もすると自分たちから声を出して、積極局的にお願いし、資料やグッズが足りなくなり、追加をするチームもありました。顧問の(千葉先生、天野先生)も、先ずは出来る出来不出来ではなく、やってみることで素晴らしい経験をする事が出来ました。とおっしゃっていただきました。当日、ご協力いただきました多くの皆様、ありがとうございました。

今回の卓話講師をお願いするにあたっては、人の繋がりや、縁とといったものを感じざるを得ません。たまたま、担当委員長の青柳さんが、100周年記念にふさわしい講師を探していたところに、住谷治男部門委員長が、小江戸川越ハーフマラソンのポスターを見て、ゲストランナーの一人の「弓削田眞理子先生」が川越女子高の先生ということを知り、以前川女のPTA会長だったという繋がりを頼りに、校長先生にお願いし、今回の卓話が決まりました。

また、先程お聞きしたところによると、ご主人の隆様とは、PTAの役員で一緒にお風呂に入った仲だそうです。そして、もう一つは私と同世代ということで、健康のヒントをいただけていると思っております。私の母も、実は川越女学校の出身で、ございます。本日の卓話を、是非参考にしていただければ幸いです。

また、卓話終了後に、弓削田先生を囲んで、3階において茶話会を実施しますので、是非ご参加ください。

<行事予定>

11月29日(火) … 2570地区第一グループ 会長幹事会(坂戸グランドH): 会長・幹事

11月30日(水) … 冬の交通安全運動出発式 タカアンドトシ一日署長 (MS観光駐車場・連馨寺): 西川副会長

12月1日(木) … 川越市制施行100周年記念式典(ウエスタ川越): 会長

12月4日(日) … 米山カウンセラー会議・クリスマス例会(アルカーサル川越): 会長・小高・山崎・ミン

## 幹事報告

2022-23年度 幹事 野溝 守



## 委員長報告

2202-23年度 奉仕プロジェクト部門委員会 委員長 齊藤 智

「小江戸川越ハーフマラソン2022プロジェクトについて」11/27(日)に開催されマラソンにおいて各種募金活動と公共イメージアップの宣伝を行ないました。

川越ロータリークラブからは25名の参加と星野高校インターアクトの学生も17名参加。

「ウクライナ支援」「ロータリー希望の風奨学金」「エンドポリオ」三つの募金箱を用意し総額¥103,204円の募金を頂く事が出来ました。また、川越ロータリークラブ概要資料150枚、エンドポリオのボールペンを250本配布し、イメージアップを図りました。

## 次週卓話

担当: 研修委員会

講師: 2019~2020年度ガバナー 相原茂吉

テーマ: 「ロータリーの原点」

## ニコニコボックス

●弓削田眞理子様、ハーフマラソンのお疲れが癒えないところと思いますが、本日は川越市市政100周年記念例会の卓話講師をよろしくお願い致します。(会長、幹事)

●相原茂吉会員、ご子息のご結婚おめでとうございます。お孫さんは将来相原家五代目のロータリーアンですね! 楽しみにしております。(会長、幹事)

●弓削田先生、本日の卓話よろしくお願ひ致します。(青柳、住谷、小川、山田(和)、山田(哲)、岩堀、西澤、片山、落合、小杉、齊藤(智)、水村、山口(裕)、小高、小林、佐藤(道)、藤井、神谷、若林、木澤、島村、近藤、上原、天野、久保田)

●11月27日、長男宏一朗の結婚式を行いました。本人の希望により内々のさやかな挙式でした。石井会長を始め、祝電を賜わりどうもありがとうございました。今後共どうぞよろしくお願ひ申し上げます。(相原)

●娘が大学受験で無事第一志望に合格しました!! 最近急にニコニコと私の帰りを毎日出迎え、入学祝いをせがもうという魂胆が丸見えで、毎日ドキドキの日々を送っています。(島村)

●誕生日を戴きました。(高口)

●結婚記念日のお祝いありがとうございました。25周年を鏡山さんの美味しいお酒で祝うことが出来ました。(山口(崇))

●妻の誕生日に素敵なお花をいただき有難うございました。(小峰)

●川越女子高時代、ご自宅(坂戸)から川女に毎日歩いて通学されていたと妻から聞きました。(鈴木(壮))

●先日の小江戸ハーフマラソンでは、沿道より沢山のご声援をいただき有難うございました。お陰様で気持ち良く57分28秒で完走することが出来ました。(佐藤(文))

●サムライ JAPAN 頑張れ! (西澤、小杉)

合計 54,000円

## 卓話 (担当: 出席委員会)

講師: 弓削田眞理子様

埼玉県立川越女子高等学校勤務、  
小江戸川越2022ハーフマラソンゲストランナー

演題: 「人生、夢を追いかけて」



※プロフィール 昭和33年生 64歳。  
川越女子高→埼玉大学教育学部卒。

※陸上を始めたきっかけ

中学校時代に初恋の男子が陸上部に入学する噂(誤報で彼は剣道部に入学した)種目は走り幅跳び、短距離60m、100mで県大会決勝まで出場。

※日本一への憧れ~高校大学時代

高校になって種目が200m、400m、800mとなり勉強部活の両立に悩みながらも800mで全国大会に出場する。その時の優勝した(表彰台の上の)群馬県の選手を見て「生まれながらの負けず嫌い」が活性化し、「一番になりたい」強い思いがエネルギーとなる。大学では800m、1500mの種目となり、1500mで日本陸上競技選手権6位入賞。3年生の時に初開催された、大雨の中の「東京国際女子マラソン」に感銘を受けフルマラソンへの参加の決意を固めた。

※社会人(教員)~初マラソンそして、壁…

体育教員になって陸上部顧問になるつもりがバレーボール部顧問に。しかし、これがマラソンへの思いへと増強しマラソンへの本格的な起点となり、第一回全国都道府県対抗駅伝出場→アンカー10kmを務めた。そして23歳の時に東京国際女子マラソンに出場し3時間9分21秒のタイム。当時は3時間を切る選手もいたので目標設定「3時間を切る」にするが、そこからタイムが縮まらず→練習、仕事等に悩み→結婚に逃げた?…

※40代でのリスタート、50代での素晴らしい仲間との出会い、そして覚醒

子育ても一段落し2008年1月に49歳で「大阪国際女子マラソン」に出場するもタイム伸びず練習方法等を約5年間模索。ランナー仲間強いクラブ(アトミクラブ)を紹介してもらい、その後グングン記録が伸びはじめた。57歳で日本マスターズW55の部1500m、3000m、5000m、10km、ハーフマラソン全てで日本一に。そしてついに58歳で34年かけて「大阪国際女子マラソン」で3時間の壁「2時間59分36秒」を出して夢を叶えることが出来ました。

※60歳を過ぎて~世界が…

2019年11月、世界初60代の3時間切り「2時間59分15秒」、更にコロナ禍の2021年1月「大阪国際女子マラソン」で世界記録更新「2時間52分13秒」。更に2022年4月にはアメリカ/ボストンマラソンにオリンピック女子マラソン初代女王「ジョーン・ベノイト」に招待され対面し、ここでも夢を果たした。

※夢を叶えられたのは「周囲の助け有り」、そして今後の「夢」は… 目標達成は決して自分一人の力で出来た訳ではない。夫、子供たち、ランナー仲間、生徒、職場の同僚…、多くの支えがあったから。感謝の気持ち忘れられない。

今後の夢は次回の東京マラソンでベノイトさんと走る事。65歳70歳でも3時間を切る事。フルマラソン完走150回達成(現在117回)。そして、人生100年だと思っているのでその頃、お墓に入る前に子供たちに「お母さん、頑張ったよ、人生全うしたよ」と言ってお墓に入る事です。拙い話を聞いて頂いて有難うございました。

